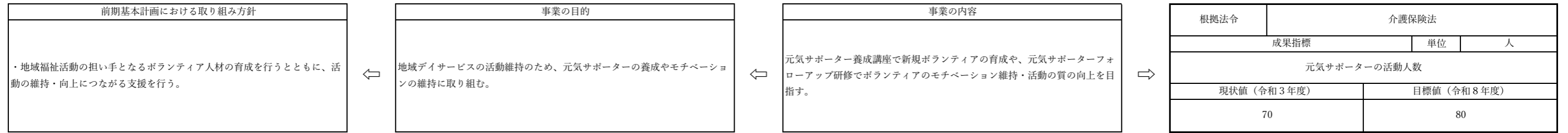


| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------|----|---|----|------|----|---|---|------|----|-----|-----------|--|--------------------|--|----|--|----------------------|-------|--|--|
| 第4次久山町総合計画 前期基本計画対応 実施計画 | | | | | 分野 | | | 地域経営 | | | 政策 | | 人と人がつながり、町の可能性を広げる | | 施策 | | ④地域福祉を支える人材の確保と体制の充実 | | | |
| 実施年度 | 令和 | 4 | 年度 | 予算科目 | 会計 | 款 | 項 | 目 | 継続 | 事業名 | 福祉支援者養成事業 | | | | | | 担当課 | 福祉課 | | |
| | | | | | 1 | 3 | 1 | 7 | | | | | | | | | 担当者 | 河原 健人 | | |

1. 事業概要



2. 実施内容（実績）

| 年度 | 令和4年度 | | | 令和5年度 | | | 令和6年度 | | | 令和7年度 | | | 令和8年度 | | | |
|----------------|--|--|--------|--|--------|------|--------------|------|-------|--------------|-------|------|--------------|------|-------|------|
| Plan (計画) | 社会福祉協議会に委託して、全5回コースの元気サポーター養成講座を実施する。また、全5回コースの元気サポーターフォローアップ研修を実施する。 | | | 社会福祉協議会に委託して、全5回コースの元気サポーター養成講座を実施する。また、全3回コースの元気サポーターフォローアップ研修を実施する。周知については広報誌やLINEに掲載、町民が集まる場に出向いて直接声掛けを行っていく。 | | | | | | | | | | | | |
| Do (実行) | 社会福祉協議会と協議を重ね、内容の見直し、開催日程の調整を行い、全5回の元気サポーター養成講座、全5回コースの元気サポーターフォローアップ研修を実施した。サポーターの高齢化が進んでいる地区を重点的に、ボランティアを行う人材の情報収集を行い、個別の声掛けや、お宮掃除など町民が集まる場に出向いて周知を行った。また、広報誌に募集案内を掲載した。 | | | 元気サポーター新規登録者数 | | | | | | | | | | | | |
| 活動実績 | 単位 | 目標値 | 実績値 | 単位 | 目標値 | 実績値 | 単位 | 目標値 | 実績値 | 単位 | 目標値 | 実績値 | 単位 | 目標値 | 実績値 | |
| | 人 | 8 | 8 | 人 | 8 | | | | | | | | | | | |
| 成果指標 | 元気サポーターの活動人数 | | | 元気サポーターの活動人数 | | | 元気サポーターの活動人数 | | | 元気サポーターの活動人数 | | | 元気サポーターの活動人数 | | | |
| | 単位 | 目標値 | 実績値 | 単位 | 目標値 | 実績値 | 単位 | 目標値 | 実績値 | 単位 | 目標値 | 実績値 | 単位 | 目標値 | 実績値 | |
| | 人 | 80 | 73 | 人 | 80 | | 人 | 80 | | 人 | 80 | | 人 | 80 | | |
| Check (評価) | B | 元気サポーター養成講座は10人が受講し、8人が地域の活動につながった。受講者数については、広報誌等での周知や直接の声掛けを行い、新規登録者数については、受講後に各地区の見学に案内するなど活動につながる取り組みが功を奏したと推察する。元気サポーターフォローアップ研修は、目標には届かず、参加者も地区によってばらつきが見られていた。活動人数の減少は、サポーターの高齢化に加えて活動実態のないサポーターの登録者整理を行ったことも要因と考えられる。 | | | | | | | | | | | | | | |
| Action (改善) | 地域デイサービスの運営の担い手である元気サポーターの役割は重要である。地域デイサービス事業を継続していくために、サポーターの支援と新規サポーターの育成を行っていく必要がある。 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業費 | 予算 | | 決算 | | 予算 | | 決算 | | 予算 | | 決算 | | 予算 | | 決算 | |
| 直接事業費（歳出） | 130 | (千円) | 130 | (千円) | 128 | (千円) | | (千円) | 0 | (千円) | 0 | (千円) | 0 | (千円) | 0 | (千円) |
| 事業費財源 | 130 | | 130 | | 128 | | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | |
| 特定 | 130 | | 130 | | 128 | | | | | | | | | | | |
| 地方債 | 0 | | 0 | | 0 | | | | | | | | | | | |
| 一般 | 0 | | 0 | | 0 | | | | | | | | | | | |
| 人件費 | 513.37 | | 436.93 | | 484.51 | | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | |
| 人員数 | 0.065 | | 0.065 | | 0.065 | | | | | | | | | | | |
| 人件費単価 | 7,898 | | 6,722 | | 7,454 | | 7,768 | | 7,768 | | 7,768 | | 7,768 | | 7,768 | |
| 事業費合計 | 643 | | 567 | | 613 | | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | |
| 町民一人あたりの負担額 | 55.535 | 円 | 47.266 | 円 | 52.031 | 円 | 0.000 | 円 | 0.000 | 円 | 0.000 | 円 | 0.000 | 円 | 0.000 | 円 |

令和4年度事務事業評価シート

| 事業番号 | 事業名 |
|-------------|-----------|
| 地域経営1-4-127 | 福祉支援者養成事業 |

PLAN(計画)⇒DO(実施)については総合計画進捗管理票にて記載

CHECK(評価)

No.1

| 自己評価 | 評価者 | 河原 健人 | 5 | 大 | ← | 小 | → | 1 | ↓ | 評点 | 判定 |
|--|-----|-------|---|---|---|---|---|---|---|----|----|
| 1. そもそも必要な事業か? 町民のニーズが高い。ニーズが増加傾向である。 緊急性が高く、即時に実施しなければならない。 実施しなければ町民生活に及ぼす影響が大きい。 町民生活や町のイメージアップの向上に寄与する。 評点 4 判定 B 評価理由 元氣サポーターは、地域サービスの運営の担い手として活動している。新規サポーターの養成や現サポーターへの支援は、地域サービスの維持に必要な不可欠であり、高齢者の選いの場としての役割、介護予防・認知症予防において必要な事業である。 | | | | | | | | | | | |
| 2. 町が実施する必要があるか? 町が実施主体となることが法令等により定められている。 公権力行使、あるいは政策判断を伴い、民間等では実施できない。 民間等や国・県で実施するよりも効果的である。 民間等あるいは国や県で類似事業を実施していない。 評点 - 判定 B 評価理由 介護予防事業を行うにあたり必要なボランティアを養成するための事業であり、町が実施主体であることが望ましい。 | | | | | | | | | | | |
| 3. 実施内容は適切か? ①有効性 久山町総合計画基本計画の将来計画を実現するために有効な事業である。 事業の手法・活動内容は適切である。 事業の成果達成状況や進捗状況は順調である。 評点 4 判定 B 評価理由 元氣サポーターとして活動することは、高齢者の健康増進や活躍の場につながり、計画に基づいた事業となっている。 | | | | | | | | | | | |
| ②効率性 事業費に見合った成果を上げている。 外部委託等(指定管理者を含む)による効率化が図られている。 実施方法の工夫により効果を維持しながらコスト削減を図っている。 評点 3 判定 B 評価理由 準備から実施、報告までの業務を社会福祉協議会へ委託しつづ、受講者増が課題である中で、町と社会福祉協議会が協力して周知することで効率的に実施している。開催回数や講師費用などの見直しを行い、コスト削減を図っている。 | | | | | | | | | | | |
| ③公平性・透明性 受益者負担について課題はない。(または、受益者負担を求めることが適当でない。) 事業費に占める一般財源の額は妥当である。 ホームページや広報を活用し、積極的に情報を公開している。 評点 5 判定 A 評価理由 介護保険制度の地域支援事業補助金を受けて実施している。広報で周知しているが、幅広い世代に向けてHPやLINEなどの活用も必要である。 | | | | | | | | | | | |

| 今後の方向性 | 見直しの具体的内容 |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> A重点化 <input checked="" type="checkbox"/> B現状のまま維持 <input type="checkbox"/> C見直し <input type="checkbox"/> D廃止 <input type="checkbox"/> E事業完了 | <input type="checkbox"/> 実施方法の工夫 <input type="checkbox"/> 事業の効率化 <input type="checkbox"/> 受益者負担の適正化 <input type="checkbox"/> 事業縮小 <input type="checkbox"/> その他 |

自己評価の理由(今後の方向性等について具体的に)
 元氣サポーターは、地域サービスの運営の担い手として活動しており、地域の介護予防活動を支える需要が存在している。事業開始当初に多くのサポーターを養成したが、その人たちが徐々に高齢化し、新しい担い手を増やすことが課題である。社協に委託しているものの、役場と社協が協力して地域の人材を確保していかなければならない。また、現サポーターの支援として、令和4年度実施のフォローアップ研修のアンケートをもとに内容の見直しを行い、現サポーターのモチベーションの維持・向上に取り組んでいく。

CHECK(評価)

自己評価を基に基本施策の進捗状況と照らし合わせて評価を行う。

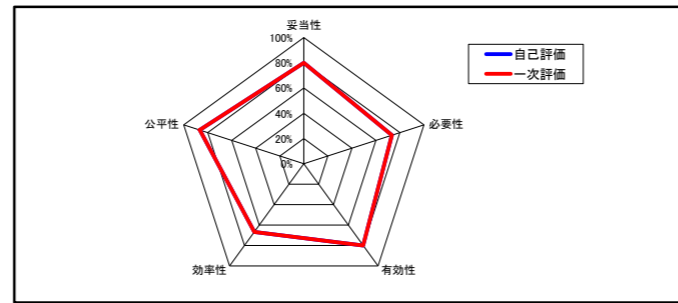
No.2

| 自己評価 | 評価者 | 今村 春美 | 5 | 大 | ← | 小 | → | 1 | ↓ | 評点 | 判定 |
|--|-----|-------|---|---|---|---|---|---|---|----|----|
| 1. そもそも必要な事業か? 町民のニーズが高い。ニーズが増加傾向である。 緊急性が高く、即時に実施しなければならない。 実施しなければ町民生活に及ぼす影響が大きい。 町民生活や町のイメージアップの向上に寄与する。 評点 4 判定 B 評価理由 自己評価のとおり | | | | | | | | | | | |
| 2. 町が実施する必要があるか? 町が実施主体となることが法令等により定められている。 公権力行使、あるいは政策判断を伴い、民間等では実施できない。 民間等や国・県で実施するよりも効果的である。 民間等あるいは国や県で類似事業を実施していない。 評点 - 判定 B 評価理由 町の事業として介護予防事業を維持するには、必要な事業であり、町が実施しなければならない。 | | | | | | | | | | | |
| 3. 実施内容は適切か? ①有効性 久山町総合計画基本計画の将来計画を実現するために有効な事業である。 事業の手法・活動内容は適切である。 事業の成果達成状況や進捗状況は順調である。 評点 4 判定 B 評価理由 元氣サポーターも高齢者が多いが、サポーターとして活動することは、高齢者の健康増進や活躍の場につながり、計画に基づいた事業となっている。 | | | | | | | | | | | |
| ②効率性 事業費に見合った成果を上げている。 外部委託等(指定管理者を含む)による効率化が図られている。 実施方法の工夫により効果を維持しながらコスト削減を図っている。 評点 3 判定 B 評価理由 社会福祉協議会へ委託しており、経費についても精査し、コスト削減を行っている。 | | | | | | | | | | | |
| ③公平性・透明性 受益者負担について課題はない。(または、受益者負担を求めることが適当でない。) 事業費に占める一般財源の額は妥当である。 ホームページや広報を活用し、積極的に情報を公開している。 評点 5 判定 A 評価理由 介護保険制度の地域支援事業費から全額補填している。 | | | | | | | | | | | |

| 今後の方向性 | 見直しの具体的内容 |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> A重点化 <input checked="" type="checkbox"/> B現状のまま維持 <input type="checkbox"/> C見直し <input type="checkbox"/> D廃止 <input type="checkbox"/> E事業完了 | <input type="checkbox"/> 実施方法の工夫 <input type="checkbox"/> 事業の効率化 <input type="checkbox"/> 受益者負担の適正化 <input type="checkbox"/> 事業縮小 <input type="checkbox"/> その他 |

自己評価の理由(今後の方向性等について具体的に)
 地域サービスの運営の担い手である元氣サポーターに継続して活動に関わっていただくためのモチベーション維持と、現サポーターの高齢化も今後進むので、後継者の発掘が必要である。そのために、令和5年度について養成講座は継続して実施、フォローアップ講座も実施する。
 その他、ボランティア活動促進の中心的役割を果たす社会福祉協議会が実施するボランティア講座等の開催を周知し、ボランティア育成の推進を行う。

自己評価・一次評価の傾向



ACTION(評価・改善)

自己評価、一次評価の結果を踏まえ、実施体系の進捗状況と照らし合わせ評価を行う。

No.3

| 二次評価 | 評価者 | 稲永 みき |
|---|-----|-------|
| <input type="checkbox"/> A以下の点について、良好と評価し、コストを拡充し更なる事業推進を図る。 地域サービスの運営の担い手である元氣サポーターの役割は重要である。地域サービス事業を継続していくために、サポーターの支援と新規サポーターの育成を行っていく必要がある。 | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> B計画どおり、現状のまま事業を継続する。 地域サービスの運営の担い手である元氣サポーターの役割は重要である。地域サービス事業を継続していくために、サポーターの支援と新規サポーターの育成を行っていく必要がある。 | | |
| <input type="checkbox"/> C事業継続と判断するが、以下の課題を解決するための計画の見直しを行う。 外部評価委員会にて評価する。 | | |
| <input type="checkbox"/> D事業廃止と判断し、外部評価委員会に諮ることとする。 外部評価委員会にて評価する。 | | |
| <input type="checkbox"/> E事業の目的を達成し、事業完了と判断する。 外部評価委員会にて評価する。 | | |
| <input type="checkbox"/> 一次評価は以下の点で問題がある又は判断されるため、一次評価の見直しを求める。 一次評価をやり直し、月 日 までに提出すること。 評価終了 外部評価へ | | |

ACTION(評価・改善)

自己評価、一次評価、二次評価の結果を踏まえ、実施体系の進捗状況と照らし合わせ評価を行う。

No.4

| 外部評価 | 評価者 | 町長 |
|--|-------|---|
| 今後の方向性 A・B=目標達成できたもの C・D=目標達成できていないもの A重点化(計画どおり進んでおり、コストを拡充し、更なる事業推進を図る) B現状維持(計画どおり進んでおり、現状のまま事業を進める) C見直し D廃止 E完了 | | |
| C見直しの具体的内容 実施方法の工夫 事業の効率化 受益者負担の適正化 事業縮小 その他 | | |
| 評価 | B | 外部評価委員の意見 ・見守り協力員の方の高齢化が顕著になっているのではないかと。 ・見守り協力員や民生委員の方に負担感が出ないよう、そこに参加する事が生きがいにつながるような内容であるべき。 ・広報やSNSなど、若い方を取り入れる施策が弱い。若い方を取り入れて、多世代交流を行っていく等で、担い手の確保にも繋げていってほしい。 ・子ども達と高齢者が一緒に遊んでいて、それが自然と見守りになっていっているような体制が取れるところまでいくと理想の形になるのではないかと。 |
| 経営者会議 | 経営者評価 | 町長 |
| 今後の方向性 A・B=目標達成できたもの C・D=目標達成できていないもの A重点化(計画どおり進んでおり、コストを拡充し、更なる事業推進を図る) B現状維持(計画どおり進んでおり、現状のまま事業を進める) C見直し D廃止 E完了 | | |
| C見直しの具体的内容 実施方法の工夫 事業の効率化 受益者負担の適正化 事業縮小 その他 | | |
| 評価 | B | 経営者会議の評価 高齢者等見守り事業及び福祉支援者育成事業は、久山町社会福祉協議会に委託しているが、連携して進めている事業である。見守り協力員の高齢化についてはすでに顕著になり始めている課題ではある。ただ一方で見守り協力員や元氣サポーターにとつてこの活動が生きがいになっているという側面もある。 見守り協力員や元氣サポーター等の制度も必要ではあるが、隣近所の人が見守りを行えるような環境を日常から整える事が必要であり、この事業に限らず、まちづくりとも関わって考えると考える。第4次総合計画にも掲げている子育て世帯や高齢者が共に集う場の創設についても、こういった見守り等に繋げていきたい。 |
| 令和6年度予算要求事項(今後の取り組み) 元氣サポーターの高齢化という課題に対し、久山町社会福祉協議会と協力して元氣サポーター養成講座を開催し、元氣サポーターの増員を図る。広報紙やLINEを活用し幅広い世代に向けて、事業内容や元氣サポーターの役割について周知していく。元氣サポーターのモチベーションの維持向上のため、元氣サポーターフォローアップ研修を開催する。また、令和6年度の新規事業として、これまで完全なボランティアとして活動していた元氣サポーターに対し、活動に応じてポイントを付与することで、活動に対するメリットを感じてもらえるような事業を実施する予定である。それによりモチベーションの維持向上と新規サポーターの増加につなげたい。 | | |